

南成瀬地区の学校統合に伴う避難施設機能について

学校が担っている避難施設機能は、学校跡地をはじめ、統合新設校や周辺施設等も含めて、その地域にとって最適な配置を検討し、引き継いでいきます。

対象	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029
南二小	既存校舎		新校舎建設			☆新校舎使用	
南成瀬小	既存校舎		既存校舎	既存校舎			

1 工事期間中（2025年から2027年）の南第二小学校の避難施設機能について

(1) 近隣の避難施設に分散

防災課と自治会等で想定避難先を決め、既にその想定避難先への避難を決めている自治会等との間で調整の場を設けます。

近隣の避難施設：南成瀬中、南成瀬小、成瀬中央小、成瀬高校（地震時のみ）、総合体育館（風水害時のみ）、成瀬コミュニティセンター（風水害時のみ）

(2) 避難場所の拡充の検討

避難施設になっている学校の空き教室の開放、現在避難施設に指定されていない施設（民間施設も含む）の活用、避難広場にテントを張れるようにするなどの拡充を検討します。

2 2028年以降の南成瀬小学校の避難施設機能について

(1) 近隣の避難施設に分散

防災課と自治会等で想定避難先を決め、既にその想定避難先への避難を決めている自治会等との間で調整の場を設けます。

近隣の避難施設：南成瀬中、統合新設校（現南第二小の位置）、成瀬中央小、高ヶ坂小、成瀬高校（地震時のみ）、小川高校（地震時のみ）、総合体育館（風水害時のみ）、成瀬コミュニティセンター（風水害時のみ）

(2) 避難場所の拡充の検討

避難施設になっている学校の空き教室の開放、現在避難施設に指定されていない施設（民間施設も含む）の活用、避難広場にテントを張れるようにするなどの拡充を検討します。

(3) 南成瀬小跡地における避難施設機能

南成瀬小跡地の活用は、避難施設機能を引き継ぐことも含めて検討していきます。

跡地活用検討スケジュール

跡地6年前 (2022年度)	跡地5年前 (2023年度)	跡地4年前 (2024年度)	跡地3年前 (2025年度)	跡地2年前 (2026年度)	跡地1年前 (2027年度)	(2028年度以降)
【跡地活用の方向性検討】 市民アンケート、地域との意見交換など			【活用の大まかな方向性決定】	【校舎解体・跡地活用の詳細検討（・決定）】		校舎解体・跡地活用

3 地域防災計画について

東京都被害想定が10年ぶりに改定されたことを踏まえ、市内各地区における避難者数を改めて推計し、2023年度に町田市の地域防災計画を改定する予定です。なお、建物の耐震化等が進み、避難者の数は約40%減少が見込まれています。